

日本学術会議地域研究委員会 地域研究社会連携分科会 (第26期・第2回) 議事要旨

日時: 令和6年9月29日(日) 14:00～17:05

場所: オンライン

出席者: 飯島渉、飯塚正人、池田恵子、井上真、梅屋潔(書記)、宇山智彦、大串和雄、小川さやか、川島真、久保広正、黒木英充、湖中真哉、小長谷有紀、酒井啓子、關雄二、園田茂人、高見澤磨、武田康裕、錦田愛子、幡谷則子、三重野文晴、宮崎恒二、宮本悟、森本泉、山本博之、横山智、吉村真子(27名)

欠席者: 慶田勝彦、中溝和弥、山越言(3名)

配布資料:

宮崎委員の作成資料(「地域研究の基盤の整備と強化の流れ」)、山本委員作成の資料(「地域研究コンソーシアム(JCAS)とその社会連携活動」)、酒井委員作成の資料(「地域研究が「現実政治」に持つ役割」)。

以下の議題について報告・質疑応答・議論が行われた。

議題:

(1) 地域研究の社会連携に関する分科会委員の報告と討論

①宮崎恒二「地域研究の基盤の整備と強化の流れ」

日本学術会議における地域研究関連の過去の提言等、日本の地域研究推進体制の構築の経緯、人間文化研究機構(NIHU)における地域研究推進事業などについて、資料にもとづき宮崎委員が報告したのち、質疑応答が行われた。

②山本博之「地域研究コンソーシアム(JCAS)とその社会連携活動」

JCAS(当初46が現在は106の加盟組織)のこれまでの社会連携活動について、2004年から20年間務めた事務局側の立場から、資料にもとづき山本委員が報告したのち、質疑応答を行った。

③酒井啓子「地域研究が「現実政治」に持つ役割」

研究対象地域の状況や自国の政策への地域研究者の関わり方とその課題について、中東研究者としての経験から酒井委員が資料にもとづき報告したのち、質疑応答が行われた。

(2) 今後の分科会活動について

川島副委員長が資料にもとづき、講師の候補について、ネットワーキングとマッチングを考えながら、素案を提案した。今後のことは執行部で話し合って追って具体的提案をすることとなった。

以上